

# 神戸大学開学記念祭 プログラム



11周年

# 開学十一周年記念祭

1959年5月15日～17日  
於 六 甲 台

## 開学記念祭の意義と目的

— 挨拶に代えて —

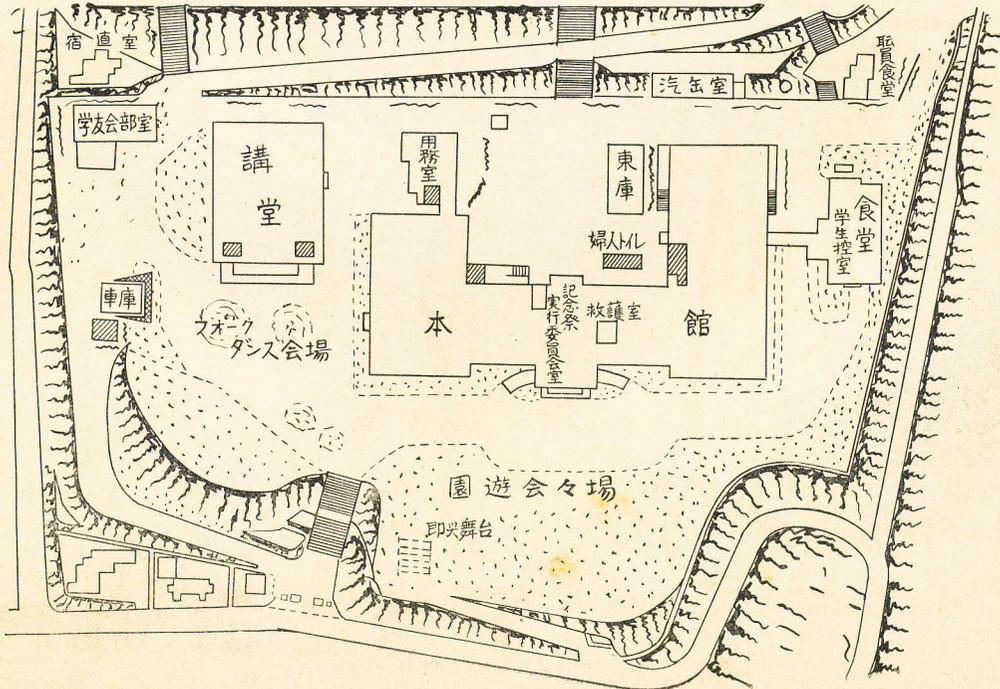
開学十一周年記念祭 実行委員長 河田光夫

ここに開学十一周年記念祭を持つ事を、全自治会員、全組合員と共に喜びたいと思います。不幸な事に神戸大学が六つの学舎にわかれたまま誕生して以来、統一された開学記念祭は長く実現しませんでした。それが一昨年、目覚ましく発展して来て日本でも唯一の全学の統一した組織を生んだ学生自治会の活動を母胎にして、遂に実現した訳であります。今年、統一記念祭の三回目になる訳です。我々は先輩達の残してくれたこの輝かしい伝統を発展的に受け継ぎ、より高い、独創的な文化の創造の為に開学記念祭を生かして行くべきでありましょう。

簡単に「より高い、独創的な文化」と言っても、それを発展させる外的内的な障害は、あまりにも多すぎないように思えます。文化、芸術が、それ自身の必然的な発展によって既成の社会体制を非難する傾向を帯びて来るや否や、たちまち法律と警察権力がそれを抑えつけるといったあのいまわしい軍国主義的傾向が、現在再び芽生えつつあります。また、考える事より覚える事を、つくる事より習う事を教えようとする教育の傾向（これは現在益々強くなりつつあるように思えます）国民の神経を異常に、或いはマヒさせ、あげくの果ては無為無批判にしてしまうマスコミ文化の影響、また、権力者達から一方的に押しつけられた常識、これらのものが私達にしみこんで来て、ともすれば安んずる、当たらず触れずな事で全てをすましてしまいがちになります。「より高い、独創的な文化」を創造する者にとっても、それを受け入れる者にとっても、これは最初の、そして最大の敵でありましょう。言いかえれば、真に独創的な文化の創造とは、これらの外的、内的なものに対する闘いの中から生まれて来ると言えるのであります。その為には是非とも強力な組織の力が必要です。ここに、組織の力で文化を生む開学記念祭の重要な意義があると思えます。この機会に日頃各自が、或いは各サークルが築き上げて来た文化の発表を行ない、それを知り、批判、賞讃する事によって、今後の方向が少しでも見出されれば、また、日頃の学園生活では学び得ない問題を、講演会、課外ゼミナールの中で触れる事ができたならば、また、劇場では見る事のできない映画に接し、新しい何かをつかむ事ができたならば、開学記念祭は確かに成功したといえるのであります。

今年から新しく課外ゼミナール、映画会を加えました。また講演会には最も重点を置き、希望通りの学者に来ていただけるようになった事を心から喜んでおります。

最後に、この開学記念祭は、一月程前から毎晩遅くまで学校に残り、印刷し、討論し、或は劇歌の演習を積み重ねて来た多くの学生の努力の結果、迎える事ができたのであるという事をつけ加えておきたいと思えます。



サークル発表会V (講堂)

球技大会 (校庭)

9.50 合唱……………第二課程オンチ・コーラス  
 ドジョッコフナッコ 川岸のペンチで  
 仲間達 オオ・ブレネリ

第二課程 出場  
 (10.00~1.00)

10.00 Sprechchor (会話劇) ……第二課程ジュニア  
 経営学部有志  
 「にあんちゃん」

課外ゼミナール

俳句会  
 主催 俳句会  
 (10.30~12.00 会議室)

11.00 人形劇……………住吉児童文化部  
 「かえるの物語」  
 かえると牛 小野道風 京のかえると大阪のかえる

講演会 (講堂)

12.00 「中立の経済的基礎について」  
 大阪市立大学 小野義彦  
 経済学部助教授  
 「文学者としての社会問題」 —松川裁判の経験から—  
 作家 広津和郎

音楽会 (堂講)

課外ゼミナール

3.00 ピアノ二重奏  
 スカラムーシュ ミヨー作曲  
 教育学部音楽科合唱団  
 雉子が啼く 下総皖一作曲  
 その他  
 四重唱  
 歌劇「マルタ」より フロトウ作曲  
 神大グリークラブ  
 黒人霊歌より  
 賛助出演 教育学部教官 武谷安子先生  
 ピアノ独奏 スカルラッティのソナタ  
 神大グリークラブ  
 組曲「月光とピエロ」  
 神大交響楽団  
 歌劇セヴィリアの理髪師 序曲 ロッシーニ作曲  
 ピアノ協奏曲 ニ短調K466 モーツァルト作曲  
 バレエ組曲「眠りの森の美女」OP 66a  
 チャイコフスキー作曲

「安保条約改訂の経済的基礎」  
 主催 経済学部自治会  
 (3.00~5.00 217号教室)

5.30 映画 「流血の記録 砂川」

フィナーレ (前庭)

6.30 フォークダンス  
 閉会の辞 開学記念祭実行委員長 河田光夫

うなひっそりと悲しい人間の姿を歌ったものであるが、この組曲は五つの部分より成り立っている。

「月光、月の光の照る辻に、ピエロさびしく立ちにけりだが彼の愛人のコロンビーナの姿は影も形も見えない。涙を流すピエロを浮き彫りにする。

「秋のピエロ、仮会、恋人が居ずともピエロは笑わねばならない。しかし身すぎ世すぎの是非もなく、おどけたけれども…、わがピエロは真実の涙をこぼすのである。

「ピエロ、お白粉を厚くぬった白い顔、紅をつけた赤い唇。おどりて明かるく笑うピエロの顔は、しかし乍ら何とさびしいことであろうか。ピエロは月の光である。月の光は、白く明かるく見えるけれども又何とさびしく感じられることか！

「ピエロの嘆き、かなしからずや身はピエロ。月の婦（やめ）の父無し児。月は美空に身はここに、身すぎ世すぎの泣き笑い。組曲中、最も美しいハーモニーに、揺られて流れる旋律に、我々は思わず涙する。

「月光とピエロとピエレットの唐草模様、ピエロ、ピエレットという合の手でリズムを刻みながら美しい旋律が歌われ、次第に感情が高まり、組曲の終結にふさわしく歌い踊るピエロとピエレットの生き生きとした姿を描き出している。

## 奏 演 (神戸大学校響楽団)

ロッシェニ：歌劇「セヴィラの理髮師」序曲  
 ピアノ独奏 木村 洋子  
 指 揮 長谷川昌治

この「セヴィラの理髮師」は1781年にモーツァルトによって作曲された「フィガロの結婚」と対をなすものでフィガロが結婚する前の話が題材となっている。この曲が1755年に発表されているので、言ってみれば話の順序が逆になっているというわけである。話の筋は、セヴィラの医師バルトロの家に、彼の後見としている美しい娘ロジーナがいて、アルマヴィヴァ伯は、その美しさにすっかり参ってしまう。ところがバルトロも彼女を愛し、あわよくば結婚しようとしている。そこでアルマヴィヴァ伯は、理髮師で町の人気者フィガロを説きつけてロジーナとの仲をとりもってもらう。ところがバルトロは一計を案じて伯の手紙を種にしてロジーナの嫉妬心をあおり、自分との結婚を約束させるが、最後にその嘘がばれフィガロの奮闘が巧を奏して伯とロジーナは、目出度く結婚する事になり、バルトロはロジーナの持参金と同額のを伯からもらう事になって満足するという筋である。ところでこの序曲は、実はこの曲のために書かれたものではないのである。初演に間に合わなかったとも、又紛失したのだともいわれるが、作曲者ロッシェニは前

年書いたオペラ「Elisabeta Regina d' Inghilterra」の序曲をもって急場をしのぐために代用したのであった。ところがこれがまた名曲であったので、爾来そのまま今日まで使われ単独でも、演奏会の曲目の中にしばしば入れられる。全体はソナタ形式で書かれ明るい、楽しいイタリアの喜歌劇の典型的な気分を出している。

モーツァルト：ピアノ協奏曲二短調 K466

1785年ウィーンに於いて書き上げられた。この年に入ってモーツァルトの生活は苦しさを加え、出版屋に前借りを申し込んでいる手紙すら見られる。この事は当時の彼の作品の緩除楽章に於いて、奥深い心の底を表わすように神韻渺茫たる情緒を繰り展げられている事にもみられる。又当時は協奏曲本来の目的は、演奏家の技巧を充分に誇示せしめんが為に、特華麗なイタリア様式が浸透していた時代で、楽曲が華やかであることは心須条件とされていた。従ってややもすると暗い気分に入り易い短調の曲が、これに相応しくなかった事はいうまでもない。加うるに、この曲に於いては極めて緊密な構成を用い、技巧の駆使より音楽的な内容に遙かに重点がおかれている。これは当時の協奏曲様式からみれば可成り型破りであった。初演は翌1786年彼自身により、予約演奏会において行われた。

チャイコフスキー：

バレエ組曲「眠りの森の美女」作品 66a

「眠りの森の美女」は有名なフランスのお伽噺作者シャルル・ペローの名高いお伽集の中に収められている名作の一つで、1888年チャイコフスキーがロシア皇室劇場の総監から帝室劇場用の新作バレエ創作の依頼を受けて書いたもので、3年前に大作「白鳥の湖」を書いた彼は、大乗気で作曲にかかり、ここはどのくらいの長さのもので、何拍子でというような注文に応じながらも美しく自然に湧き出た様な旋律が書けたという事は、驚異の外ない。この物語の美女というのは世間なみの妻や娘ではなく、王女なので、「眠りの姫」「眠るお姫様」といった方がピッタリする。全曲は三幕四場充分に一夜の曲目を充たす大作で、バレエとしても全曲通しの公演を行う事は普通のバレエ団などが容易に企てうることではなく、西欧諸国ですら最初から完全な全曲の形で紹介されたのではなく、「青い鳥のパ・ドウ・ドゥー」とか、「オーロラの結婚中のオーロラの王子とパ・ドウ・ドゥー」などのほんのひとくさりの抜萃が踊られたにすぎない。又交響楽団公演曲目の出し物とする場合は、この大作中から五曲を抜いて、演奏会用に改めた組曲作品66のaに限られている。本日はこの中からさらに抜萃して三曲演奏する。